日本保育学会　第72回大会
2019年5月4日＠大妻女子大学

幼児教育アドバイザー政策の実践と成果に関する考察

―質問紙及びインタビュー調査の結果から―

東京大学発達保育実践政策学センター（Cedep）
佐々木織恵・天野美和子

幼児教育アドバイザー制度制定の経緯

- これまで指導主事の派遣が十分に行われてこなかった
- 子ども・子育て支援新制度後、幼児教育の質の向上の重要性の認識の高まり
- 2015年、中教審の教育課程企画特別部会で提案

→その後、各専門部会で共有される

- 2017年～ 「幼児教育推進体制構築事業」（幼児教育アドバイザーと幼児教育センター）の立ち上げ

出典：高島（2018）

幼児教育アドバイザーの役割

- 当初は指導主事の指導助言活動の役割と同じ位置づけ

→その後、保育者の資質向上や子育て支援に対するアドバイス等、多様な役割を担うことが期待されるように（高島2018）

＜幼児教育アドバイザーの定義（文科省HPより）＞

- 幼児教育の専門的な知見や豊富な実践経験を有する
- 域内の幼児教育施設等を巡回、教育内容や指導方法、環境の改善等について指導を行う

※ただし、定義は曖昧であり、運用や意味付けは各地方地方団体に委ねられている

幼児教育アドバイザーの配置状況

- 常勤アドバイザーの配置：95自治体／931回答自治体（10.2％）
- 非常勤アドバイザーの配置：106自治体／931自治体（11.4％）

出典：Cedepが2018年に実施した、都道府県と市区町村の1785教育委員会を対象とした全国自治体質問紙調査結果（回収率52.2％）

課題設定

【先行研究】

- 保育・幼児教育の現場の「文化」の理解の重要性の指摘（高島2018）

➢実際の幼児教育施設におけるアドバイザーの実践や成果（園や教職員の反応や対応）についてはこれまで検討されていない

→<u>現状を明らかにすることで、今後の幼児教育アドバイザー制度の在り方を探る</u>

研究の方法

□<u>訪問調査</u>

- 群馬県のA幼稚園、静岡県のB保育所、熊本県のC保育所で実施。
- アドバイザーの業務の観察と園長及びアドバイザーへのインタビューの実施。

□<u>質問紙調査</u>

時期：2018年10月

対象：12自治体の幼児教育施設117園（幼稚園59園、保育所40園、認定こども園18園）の施設長及び保育者（主任及び1歳・3歳・5歳クラスの担任）

回収率：87園（74％）。このうちおよそ半数の園がアドバイザーの訪問があったと回答。

□<u>受託自治体へのヒアリング</u>:29自治体を対象に2018年9月～10月に実施

群馬県内の公立A幼稚園の事例

［**訪問日時**］2018年9月13日　9:30~16:30

［**取り組み**］「幼児教育アドバイザー出前研修」

［**派遣されたアドバイザーの人数**］3名

［**アドバイザーの活動スケジュール**］

9:30~ 午前の保育参観（クラスごと）
11:00~ 参観の報告と分科会１の打ち合わせ
11:20~ 分科会１（保育補助員らとの面談）
12:00~ 休憩（園長や主任と共に昼食）
13:00~ 午後の保育参観（クラスごと）
14:00~ 参観の報告と分科会２の打ち合わせ
15:00~ 分科会２（各担任教諭との面談）
15:45~ 休憩
16:00~16:30 園内研修全体会

［観察およびインタビューからのまとめ］

- 年間通して同じ３名のアドバイザー（障害児養育施設長、元保育所長、大学教員）が定期的に訪問しており、各々の専門領域からの捉え方を互いに共有している。
- 保育者の実践や子どもの様子を参観し、それに基づいて教職員との面談や全体研修とセットで実施している。
- 教職員との面談や全体研修の場面では、教職員とアドバイザーとの活発な意見のやり取りがなされていた。
- 年度を越える際にはアドバイザーがクラスを持ち上がりで担当しているため、子どもの発達を継続的に捉えることができる利点がある。
- 年間通しての出前研修日数は１４日（のべ２２日）で、出前研修の総時間は60.5時間（のべ97時間）である。
- 幼稚園のため保育終了後の午後の時間を園内研修等に使う体制が比較的整っている。また、公立園のため、幼児教育センターが関わった取り組みをしやすい状況にある。

静岡県内の公立B保育所の事例

［**訪問日時**］2018年8月30日　9:00~16:00

［**取り組み**］園内研修テーマ：

「保育内容の充実と向上をめざして」

［**派遣されたアドバイザーの人数**］1名

［**アドバイザーの活動スケジュール**］

9:00~ 午前の保育参観（全クラスをまわる）
12:00~ 休憩
13:00~ 保育参観後の指導、助言
・乳児クラス（45分）
・幼児クラス（45分）
14:30~ 全体会
15:00~16:00 若手職員への指導、助言（個別）

［**観察およびインタビューのまとめ**］

- 今回初めてアドバイザーの派遣を依頼した保育所の事例である。アドバイザーの経歴は、同じ静岡県内の公立保育所長経験者であった。
- 保育者の実践や子どもの様子を参観し、それに基づいて園長や保育士との面談や全体研修とセットで実施している。
- 保育所のため保育が終日行われている実情もあり、所長は、特に全体研修のように全職員が集まる研修の実施のための職員シフト等を含めた調整や場所の確保が難しかったと語っていた。
- その一方で、アドバイザーが公立保育所長経験者ということもあり実情を理解してもらえる点や、親身になって相談にのってくれたり、励ましてくれたりすることが心強いと語っていた。
- 地理的な事情から近隣園との距離が遠く、他園の情報を得にくく、連携も取りにくいため、アドバイザーが間に入ってもらえると助かるとも語っていた。

熊本県内の公立C保育所の事例

［**訪問日時**］2019年2月26日　9:00~14:45

［**取り組み**］参観保育による助言、担任全員研修

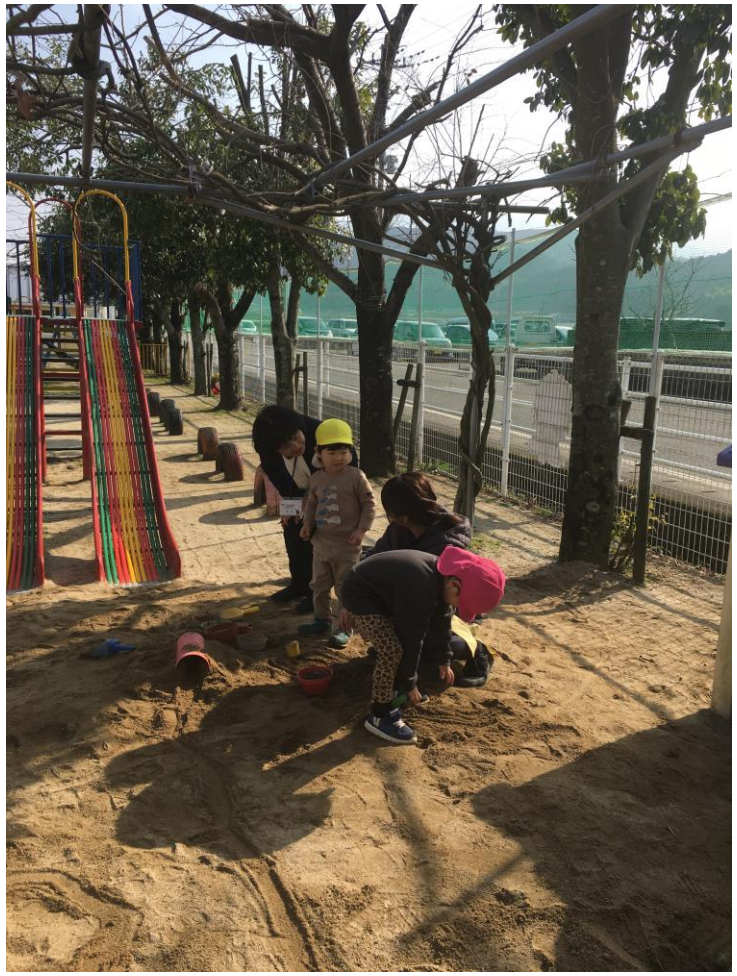
［**派遣されたアドバイザーの人数**］１名

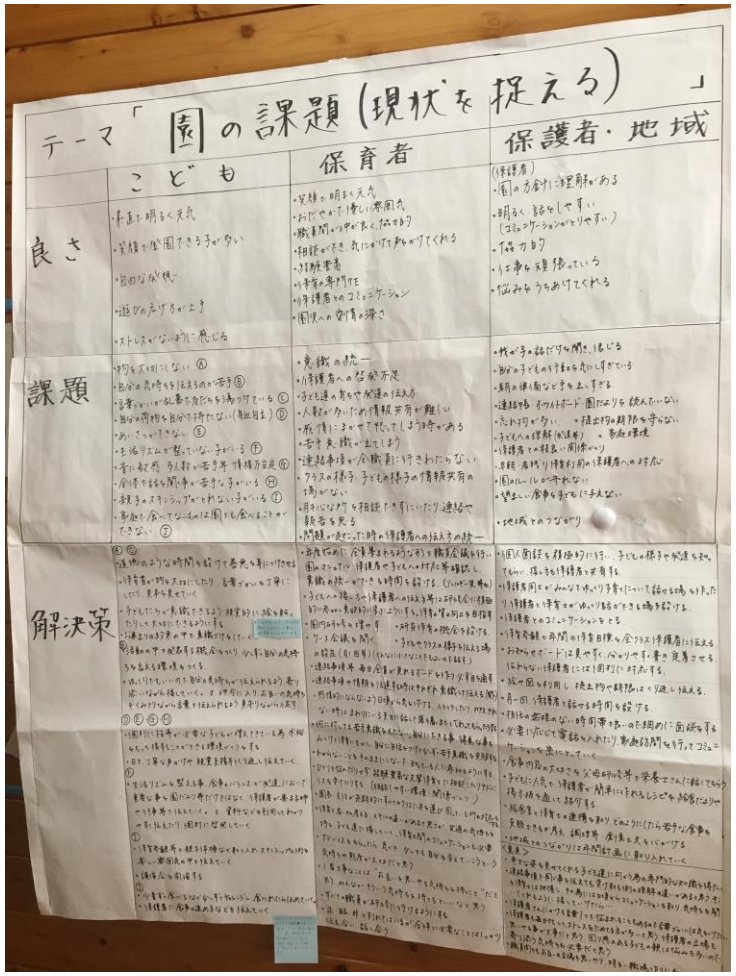
［**アドバイザーの活動スケジュール**］

9:00~ 戸外遊びの保育参観（年少2クラス）
10:00~ 製作活動の保育参観（年少2クラス）
　　卒園する年長児に贈るプレゼント製作場面
11:30~ 給食場面の保育参観（年少2クラス）
12:30~ 休憩
13:30~ クラス担任全員研修

［観察およびインタビューのまとめ］

- 2018年9月から2019年2月までの半年間で計13回のアドバイザー訪問が行われていた。この日は主に年少2クラスが対象であった。
- アドバイザーの経歴は公立幼稚園長経験者であった。そのためか、アドバイザーは乳児保育、保育所保育について勉強を心がけ、幼稚園経験者としての保育の視点も活かした助言をするように工夫していた（例えば、職員間での園内研修のやり方など）。
- 職員室には、「園の課題（現状を捉える）」というテーマの模造紙が貼られていた。これは、アドバイザーの提案の下、職員らが話し合って、子ども・保育者・保護者、地域ごとに、良さ・課題・解決策について整理することで可視化し、日々の振り返りや、必要に応じて加筆されたものであった。これは、アドバイザーの助言の効果であると考えられる。
- 職員らは、午睡時に参加可能な職員で園内研修を行っていた。アドバイザーは、保育の振り返り、保育内容と援助の在り方について、新保育指針との関連などについて指導助言を行っていた。

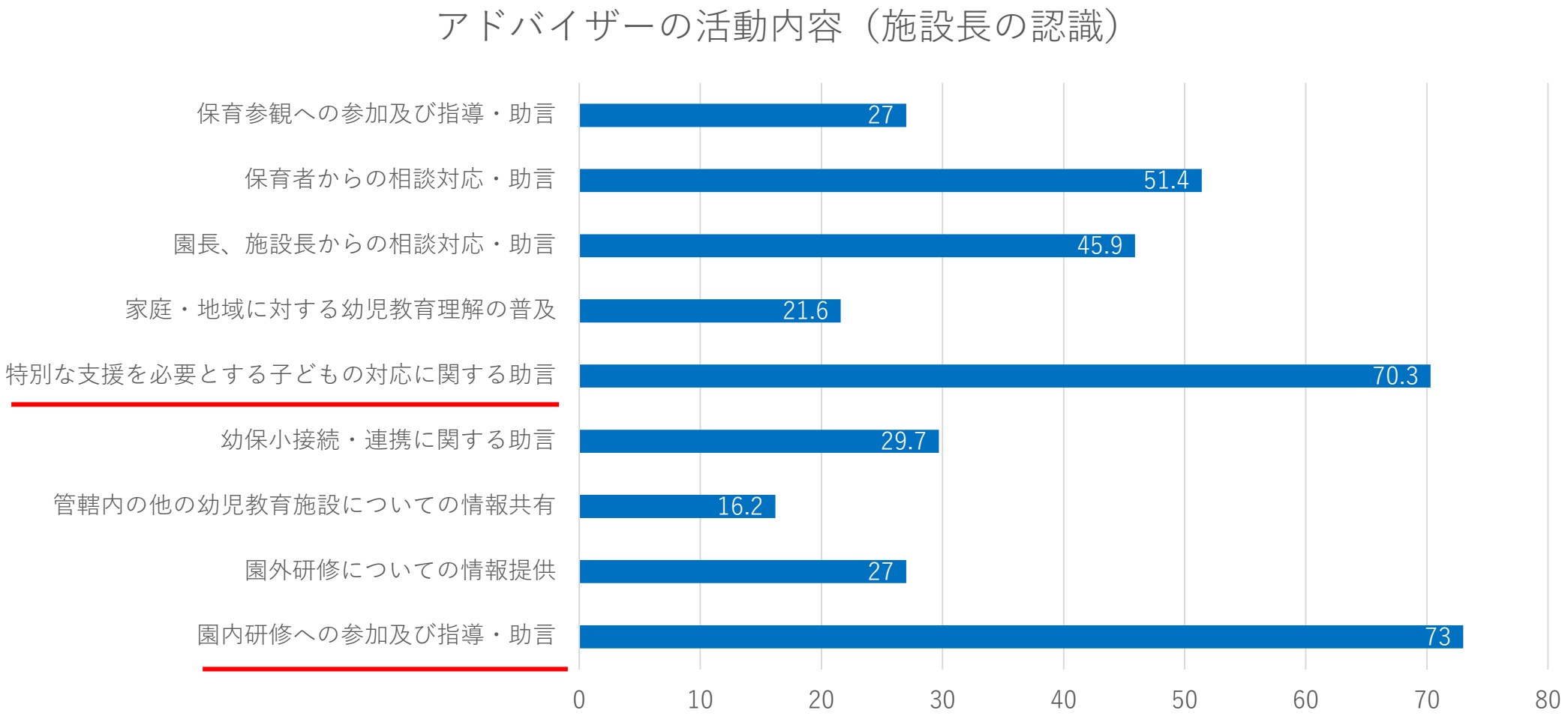




テーマ「園の課題（現状を捉える）」

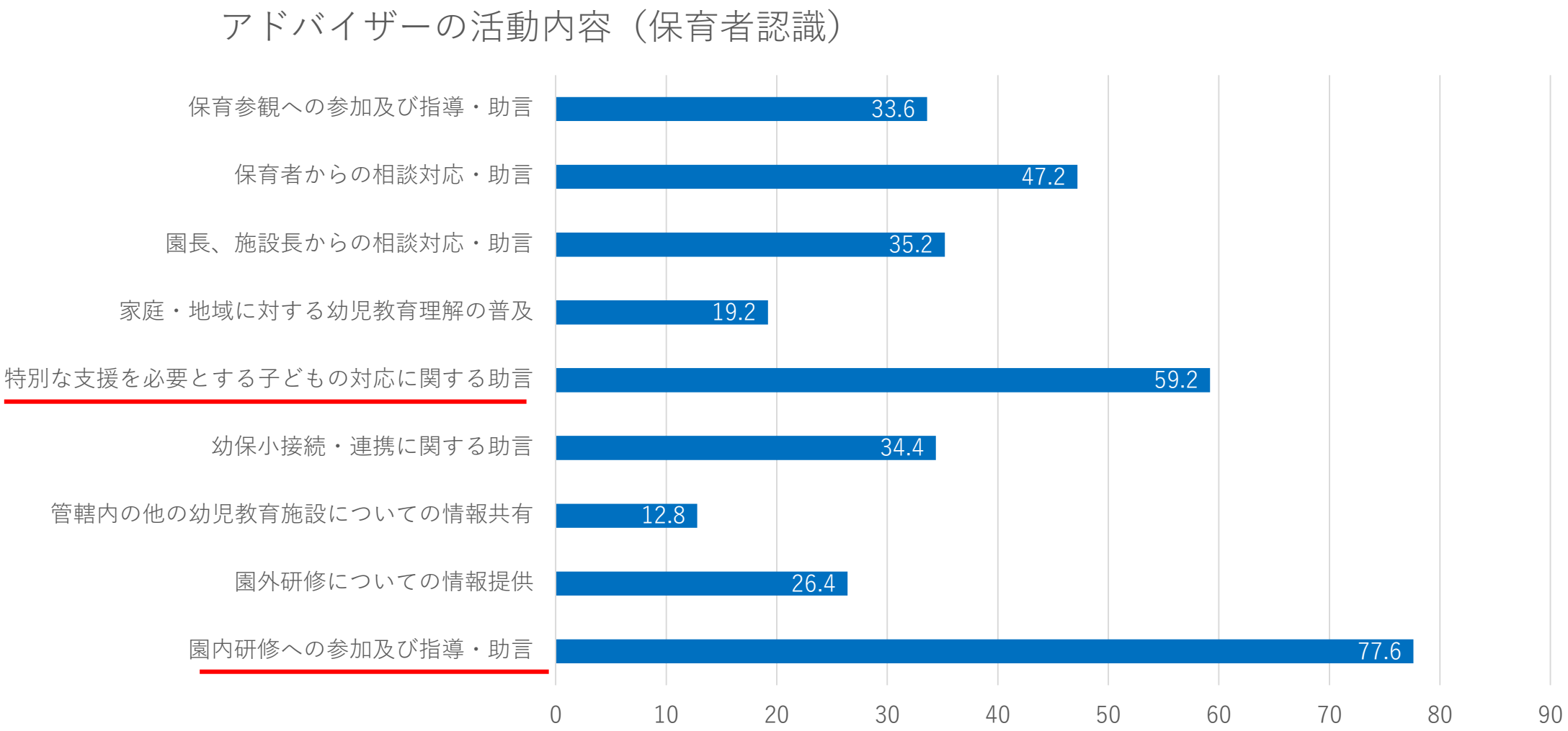
	こども	保育者	保護者・地域
良さ	・本園は明るく天気 ・笑顔で園できる子が多い ・自由な雰囲気 ・遊びの広がりが上手 ・ストレスがないように感じる	・笑顔で明るく元気 ・おだやかで優しい雰囲気 ・職員間の仲が良くて話やすい ・相談ができ、気にかけて声かけてくれる ・経験豊富 ・子育ての専門性 ・保護者とのコミュニケーション ・園児への愛情の深さ	（保護者） ・園の方針に理解がある ・明るく話をしやすい （コミュニケーションがとりやすい） ・協力的 ・子育て頑張っている ・悩みをうちあけてくれる
課題	・物を大切にしない Ⓐ ・自分の気持ちを伝えるのが苦手 Ⓑ ・言葉づかいが乱暴で友だちを傷つけている Ⓒ ・自分の荷物を自分で持てない（年齢相当） Ⓓ ・あいさつができない Ⓔ ・生活リズムが整っていない子がいる Ⓕ ・言い訳が多い、言葉で表現する力が弱い Ⓖ ・自信をなくす関係や、苦手な子がいる Ⓗ ・教室のスペースが狭くて落ち着けない子がいる Ⓘ ・参加して食べられない子は園でも食べることができない Ⓙ	・業務の統一 ・小学校との接続 ・子ども達の育ちや発達の伝え方 ・人数が多いため情報共有が難しい ・職員によって捉えかたが違う時がある ・苦手な職員がいる ・連絡帳など、家庭に行きわたらない ・クラスの様子、子ども・親子の情報共有の場がない ・明らかな怪我を報告できずにいたり、連絡や報告を見る ・問題が起きたとき時の保護者への伝え方の統一	・教育方針だけが聞こえる感じ ・自分の子どもの様子しか見ていない ・家庭の様子（親など）を知りたい ・連絡帳、オークルボード、園だより を読んでいない ・忘れ物が多い。 ・提出物の期限を守らない ・子どもへの理解（発達）。 ・家庭の環境 ・保護者と本部と、関係べり ・長時間、夜間や保護者が園の様子を知ることが難しい ・園のルールが守れない ・学ぶ、食事も子どもに（手が出ない ・地域とのつながり
解決策	Ⓐ Ⓒ ・遊びのような時間を設けて基礎を身に付ける ・保育者が物を大切にしたり、言葉づかいを丁寧にしたり、見本を見せていく ・子どもたちが集団でできること、経験が出来る場を作る。たくさんの友だちとできるように。 ・保護者の好きな物を集団で作ったり。 Ⓑ Ⓖ Ⓗ ・家庭の中で必要な職業（会社など）や、仕事の大切さを伝える環境をつくる ・低い目線での言葉遣いを心がける。（子どもの目線） ・連絡帳を使って、毎日の様子を書きあうコーナーを作る。 Ⓒ Ⓓ Ⓔ Ⓕ ・保育者が、必要なものを使いやすくする。（例）こまめに片づけ、整理整頓や、使用後は元の場所へ戻す。 ・日々、工夫ありの中で、経験を積み重ねて伝えていく。 Ⓘ ・生活リズムを整える事。（例）ハンカチ・ポケットティッシュ・着替えなどを、園だけの事だけではなく、保護者へ事ある毎に伝えていく。また、家庭内でも利用しやすい環境を作り、個別に対応していく。 Ⓙ ・保育者経験等、経験を積み重ねるために、スモールクラスの利用等、一斉指導の中で伝えていく。 ・調理室の利用する Ⓐ ・少人数で、落ち着いた雰囲気のクラスを作ったり、食べられるように、食べ方の工夫をしていく。 ・保護者に、食事の進め方を伝えていく。	・業務改善に、会議等はあるべき形を考え、職員会議を行う。 ・園だより、保護者や子どもへの対応等確認。 ・業務の統一、ゆとりある時間を設ける。（ICTの活用） ・子どもへの接し方・保護者への伝え方等は、職員全体で共有し、意識を高める。特に、写真の扱いや個人情報の管理。 ・個別の対応を行う。 ・サークル活動を開催。 ・研究保育等の機会を設ける。 ・子どもやクラスの様子を伝える場の設定（朝・夕）（ICTのツールを使う） ・連絡帳使用、毎日内容を書きるボードを作り、必要な情報を連絡帳の情報から抜き出すなどわかりやすい環境を整える。 ・連絡帳の情報は、連絡帳以外の手段（ICT、ボード）で、必要な情報は伝えるように。 ・情報のない人や、連絡帳を忘れた人等に対する対応を考える。 ・一時、一時、一斉指導で話やすい時間を設ける ・子どもの安心できる、ゆとりある時間を設ける ・必要に応じて、家庭訪問をしたり、家庭訪問を行ってコミュニケーションを深めていく。 ・保護者の方々とも、父母会や、学年ごとの保護者会を行い、子どもの様子や、成長を知ってもらい、様子を伝え保護者と共有する。 ・長期休暇中、夏休みなどゆっくり子育ての話ができる場を設ける。 ・保護者とのコミュニケーションをとる ・保育実践を、毎月の保育目標や、全クラス保護者に伝える ・おたよりボードには見やすく、ゆっくりや、書き、発信させる。伝わらない保護者には個別に対応する。 ・園の様子を利用し、提出物の期限はよく、伝える。 ・月一回（今年度）話やすい時間を設ける ・子どもの安心できない、時間帯を設ける。 ・必要に応じて、家庭訪問を行ってコミュニケーションを深めていく。 ・保護者の方々とも父母会や、学年ごとの保護者会を行い、子どもの様子や、成長を知ってもらい、様子を伝え保護者と共有する。 ・長期休暇中、夏休みなどゆっくり子育ての話ができる場を設ける。 ・保護者とのコミュニケーションをとる ・保育実践を、毎月の保育目標や、全クラス保護者に伝える ・おたよりボードには見やすく、ゆっくりや、書き、発信させる。伝わらない保護者には個別に対応する。 ・園の様子を利用し、提出物の期限はよく、伝える。 ・月一回（今年度）話やすい時間を設ける ・子どもの安心できない、時間帯を設ける。 ・必要に応じて、家庭訪問を行ってコミュニケーションを深めていく。 ・保護者の方々とも父母会や、学年ごとの保護者会を行い、子どもの様子や、成長を知ってもらい、様子を伝え保護者と共有する。 ・長期休暇中、夏休みなどゆっくり子育ての話ができる場を設ける。 ・保護者とのコミュニケーションをとる ・保育実践を、毎月の保育目標や、全クラス保護者に伝える ・おたよりボードには見やすく、ゆっくりや、書き、発信させる。伝わらない保護者には個別に対応する。 ・園の様子を利用し、提出物の期限はよく、伝える。 ・月一回（今年度）話やすい時間を設ける ・子どもの安心できない、時間帯を設ける。 ・必要に応じて、家庭訪問を行ってコミュニケーションを深めていく。

アドバイザーの活動内容（施設長の認識）



※　数字は回答者の割合を示す

アドバイザーの活動内容（保育者認識）



※　数字は回答者の割合を示す

幼児教育アドバイザー配置の効果に関する認識

➢園長・施設長の効果認識

・園の自主性の尊重や良い取り組みの後押し

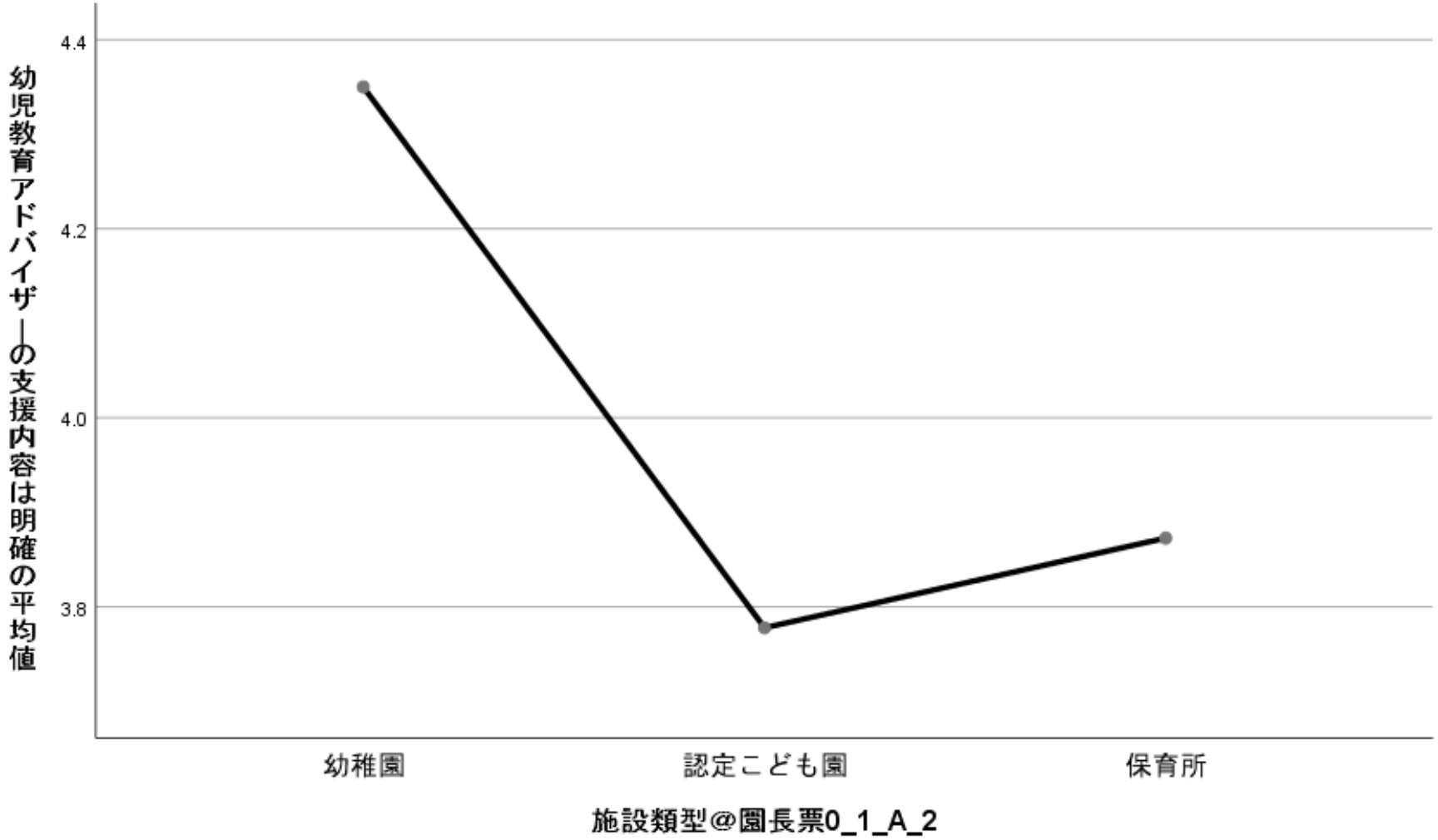
（保育者はアドバイザーの支援内容・資質能力への肯定的な認識）

➢公立保育所と公立幼稚園の認識の差

・公立保育所で幼児教育アドバイザーの支援内容や資質能力、園の自主性の尊重や園の課題や方向性の明確化が、課題として認識されている実態

「幼児教育アドバイザーの支援内容の明確性」に関する認識と施設類型

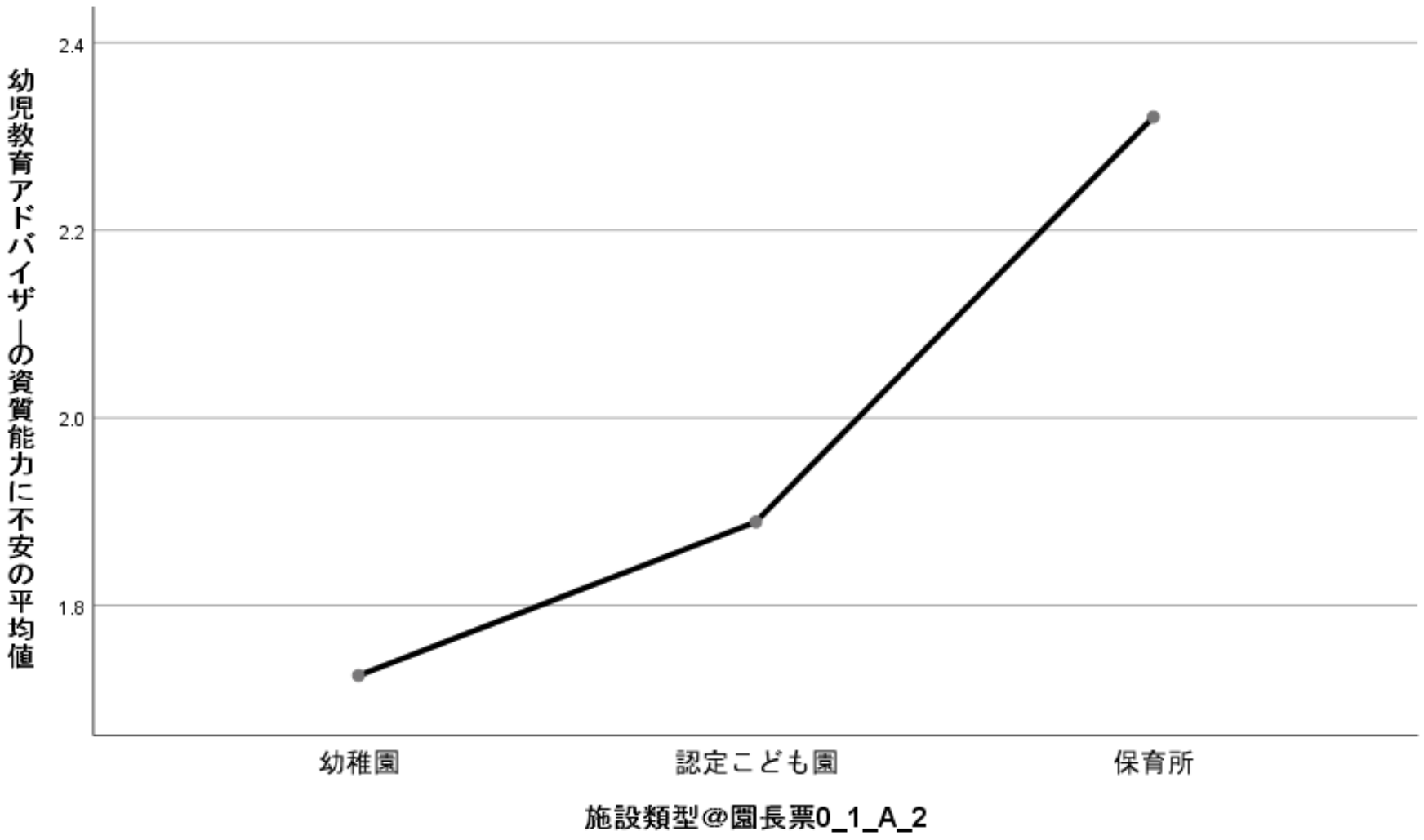
「幼児教育アドバイザーの支援内容の明確性」に関する認識と施設類型



✓ 幼稚園のほうが保育所より有意に0.48ポイント平均値が高い（5％水準で有意）

「幼児教育アドバイザーの資質能力への不安」に関する認識と施設類型

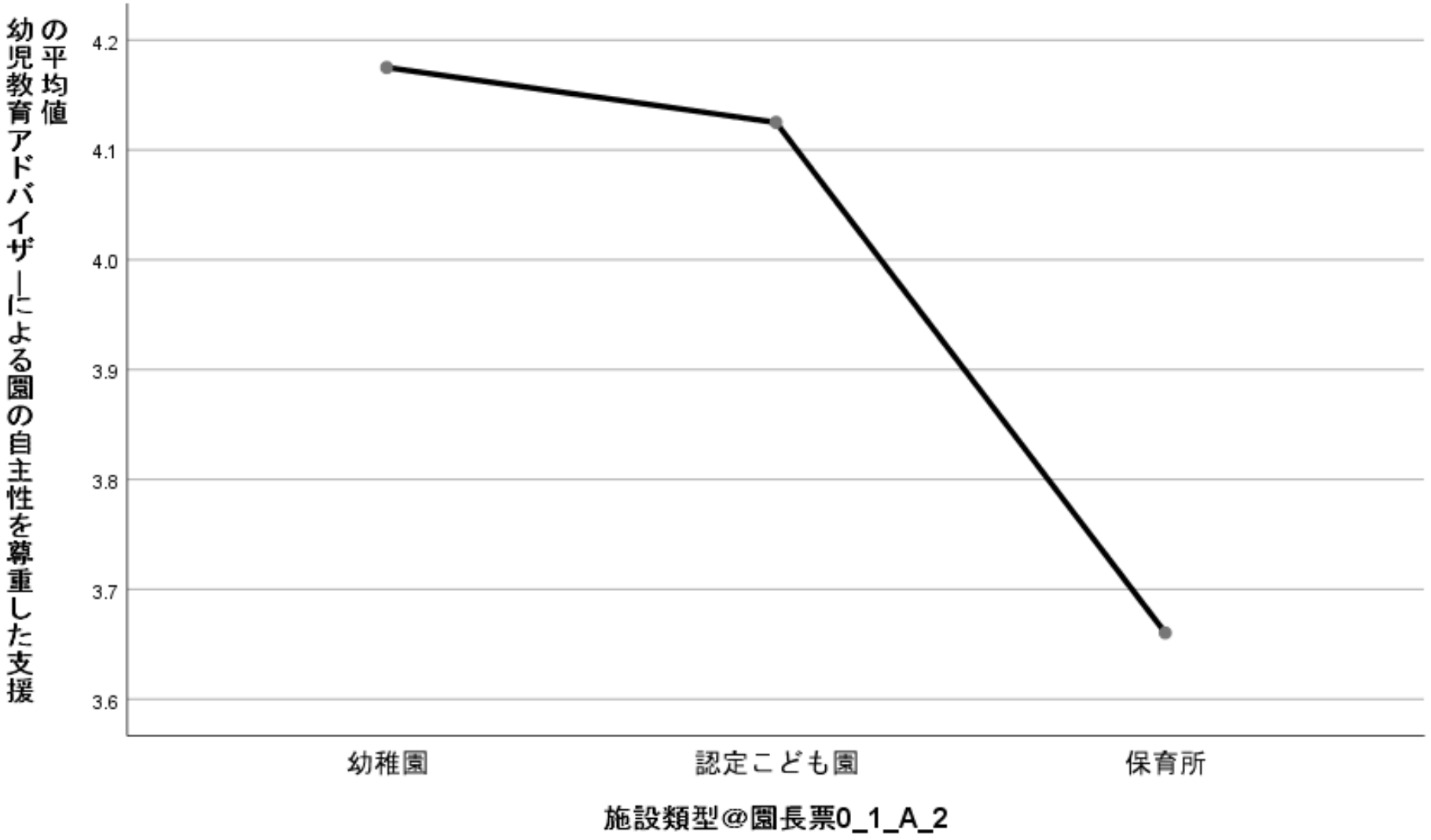
「幼児教育アドバイザーの資質能力への不安」に関する認識と施設類型



✓ 幼稚園のほうが保育所より有意に0.60ポイント平均値が低い（1%水準で有意）

「幼児教育アドバイザーによる園の自主性の尊重」に関する認識と施設類型

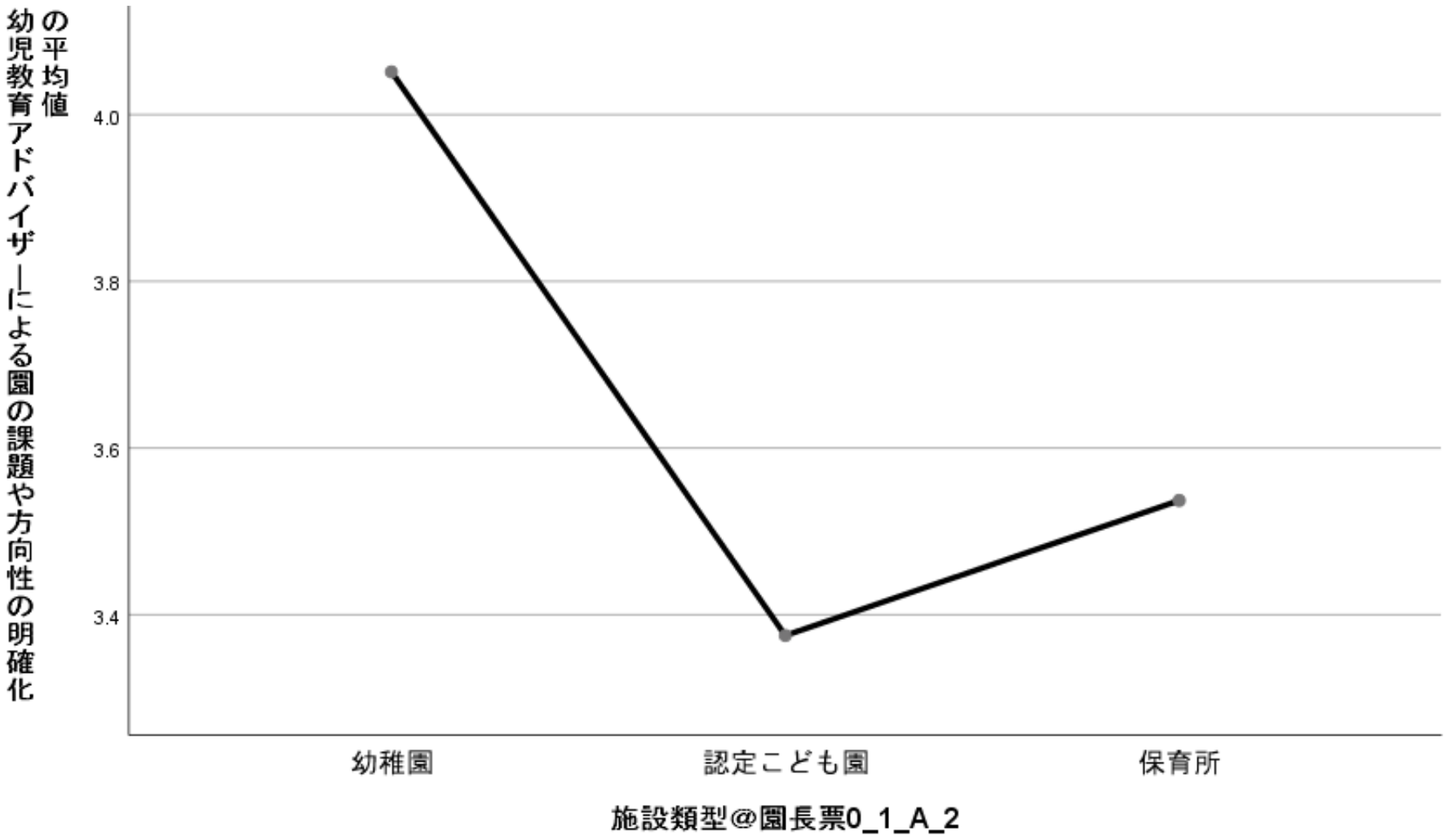
「幼児教育アドバイザーによる園の自主性の尊重」に関する認識と施設類型



✓ 幼稚園のほうが保育所より有意に0.52ポイント平均値が低い（1%水準で有意）

「幼児教育アドバイザーによる園の課題や方向性の明確化」に関する認識と施設類型

「幼児教育アドバイザーによる園の課題や方向性の明確化」に関する認識と施設類型



✓ 幼稚園のほうが保育所より有意に0.51ポイント平均値が低い（1%水準で有意）

効果認識に影響を及ぼすその他の要因

➢複数の幼児教育アドバイザーによる訪問

園の自主性の尊重

	B	標準誤差	ベータ
切片	4.00 ***	0.45	
役職無	-0.05	0.20	-0.03
正規常勤	0.06	0.30	0.02
非常勤	0.51	0.71	0.08
現在の園での勤続年数	-0.02	0.02	-0.21
園児数	0.00	0.00	-0.11
AD訪問回数	-0.21 †	0.13	-0.22
AD一回当たり訪問人数	0.23 †	0.12	0.25
公立幼稚園	0.38	0.29	0.20
公立保育所	-0.36	0.31	-0.16
私立保育所	0.26	0.37	0.12
決定係数	0.18		
調整済み決定係数	0.09		
F値	1.95 **		
N	98		

園の良い取り組みの認定・後押し

	B	標準誤差	ベータ
切片	4.01 ***	0.43	
役職無	0.04	0.19	0.02
正規常勤	-0.20	0.29	-0.08
非常勤	0.37	0.69	0.06
現在の園での勤続年数	0.00	0.02	-0.01
園児数	0.00	0.00	-0.18
AD訪問回数	-0.09	0.13	-0.09
AD一回当たり訪問人数	0.23 †	0.12	0.26
公立幼稚園	0.38	0.28	0.21
公立保育所	-0.11	0.30	-0.05
私立保育所	0.21	0.37	0.11
決定係数	0.17		
調整済み決定係数	0.07		
F値	1.75 †		
N	96		

アドバイザーの配置や専門性向上に関する工夫（受託自治体へのヒアリングより）

➢**<u>幼児教育アドバイザーの派遣対象を拡大する工夫</u>**

・接続期に特化した情報提供（北九州市）

・園所に主導権を置く出前研修・出前相談方式（前橋市）

➢**<u>幼児教育アドバイザーの専門性向上の工夫</u>**

・保幼小以外の校種の教員経験者（福岡県）、特別指導学校教頭（北海道）、スクールソーシャルワーカー（北海道）、臨床発達心理士・言語聴覚士（前橋市）といった人材配置の多角化

- 複数のアドバイザーでの訪問や専門職との訪問はアドバイザー同士の学び合いや情報共有の機会となる可能性

結論と今後の課題

【<u>結論</u>】

- 幼児教育アドバイザーに対する効果認識に施設類型ごとの違い
- 幼児教育アドバイザーの専門性の多角化や複数人での訪問の有効性

【<u>今後の課題</u>】

- アドバイザーと幼児教育施設のマッチングの工夫
- 施設類型ごとのアドバイザーの支援の在り方

についてよりミクロに検討

ご清聴ありがとうございました！

＜参考文献＞

高島 裕美（2018）「「幼児教育の推進体制構築事業」の展開に関する一考察：北海道における「幼児教育アドバイザー」事業に焦点を当てて」『人文・自然・人間科学研究』 40号, pp. 147-170.

※ 本研究で行った質問紙調査結果は文部科学省からの委託研究の成果をまとめたものです。
※ 本日の発表資料は後日、CedepのHPにアップロードいたします。